

鳥取・米子城跡

よなごじょう

1 所在地 鳥取県米子市西町

2 調査期間 第三三次調査 二〇〇一年(平13) 四月～九月

3 発掘機関 (財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室

4 調査担当者 佐伯純也

5 遺跡の種類 城下町跡

6 遺跡の年代 弥生時代～近代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

米子城跡は、市街地の北西部に位置する港山を中心に形成された、中世から近世までの城郭遺跡である。これまでに、本丸を含む城郭



(米子)

中心部分のほか、武家屋敷地の調査が行なわれている。今回の調査地点は、内堀に面する武家屋敷跡である。調査では、近世前半と近世後半の二時期の礎石建物のほか、掘立柱建物や石組井戸などを検出し、武家屋敷の構造を知る手がかりが得

られている。木簡は、屋敷の境界と考えられる水路跡から一点出土した。このほか、ダニエル電池容器、輸入陶磁器、ガラス瓶など、明治時代後半期に相当する時期の遺物が多量に出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「伯耆国米子行
久山義英。」

210×68×10 011

針葉樹材を短冊形に榎目取りした木材を使用しており、表面は風化し、墨書も不鮮明になっている。裏面には墨書は確認できない。木簡の上下に直径5mm程の孔があけられており、釘状の工具で裏面側から穿孔されたものと考えられる。この木簡と同形で記載形式も一致する木簡が東京都港区の汐留遺跡から多数出土しており(本誌第二号)、その例から推測すると、本資料は鉄道貨物に関連する荷札とも考えられる。

9 関係文献

(財)米子市教育文化事業団『米子城跡第三三次・三六次調査』(二〇〇二年)

(佐伯純也)

